

## パリ・パッシー界限散策記 (2009年3月23日～28日)

パリに4日間滞在して仕事場のあるパリ16区を中心に歩き回った記録。

### 3月23日(月) 東京は晴、パリは曇り

いつものとおり、朝6時半頃、水戸駅南口で高速バス、ローズライナーに乗車し旅が始まる。フライトはJALだから成田第2ターミナル。バスを降りて、荷物を引っ張りながら建物に入る。いつものように混み合っている。JALエコノミークラスのチェックインカウンターを探していたところへ同行のKさんより声を掛けられる。

言うには、貨物機が着陸に失敗して炎上、滑走路が閉鎖されているとのこと。道理で誰もチェックインカウンターには張り付いていない。ターミナル内では騒然とした様子はないが、なるほど掲示板は次々と「欠航(cancelled)」の表示。予定していた1100発JAL405便もすでに欠航決定。

なんでも、長距離用の長い方のA滑走路が閉鎖されているため、ヨーロッパ向けの大型機のフライトは全滅だとか。アジア方面の短距離航路はB滑走路から離陸。後に、Federal Express社の中国ー東京定期便がウインドシアに対応出来ず着陸に失敗、転倒、炎上、アメリカ人乗員2名が死亡、とウェブ情報。

さあ、欠航となってわれわれの出張はどうなる。今回の4日間のパリ滞在のうち、出席必須は初日の分科会のみ。報告をしなければならない。翌日から3日間の上部委員会はdutyなし。同席していればよい。したがって、今日出発できなければ出張全体の意味がない。だから出張全体を取り消すのか、あるいはそれでも後半3日間のために決行するか、出張依頼元次第。

依頼元のKB君(以下、「バタっち」)に連絡をとろうとしたところへ、丁度彼が現われる。Kさんと私、「どうするの?」と。彼だけでは判断がつかない。上司の指示を仰ぐ。子供の使いみいたいが組織だから仕方がない。課長の指示は、最大の努力をしてGO、バタっちのdutyは初日だけ出席なので(今回の彼の出張は1泊3日の弾丸出張)、今日飛べなかったら出張はとりやめ、しかしKさんと僕は今日飛べなくても後半3日間の会議に出席するために行って戴く、とのこと。ハイハイ。

話をややこしくしたのが、バタっちだけが、第1ターミナルでチェックインするエール・フランス便を予約しており、その便が欠航かどうかの情報がないこと。(Kさんと僕はJALだった。)ここ第2ターミナルへは今のところ欠航の決定は届いていないと。バタっちはエール・フランスが好きなのか、あるいは旅費申請したときに最も安い切符がそれだったのか・・・。

Kさんと私、「事故の状況からして出発できる希

望はないでしょう」と。ヤル気は失せていた。しかし、結果的に、バタっちの、執念にも似た粘りのお陰で、少なくとも彼と僕とは渡仏することになったのだ。

一縷の望みを持って3人でバスに乗り第1ターミナルへ移動する。果たして、エール・フランス便1240発はまだ欠航決定はしていない。生きている。チェックインも進行中。ここで、一旦殺がれたやる気を奮い立たせ、まずは旅行社に電話。担当者は手回しがいい。「同じフライトを予定していた、同じ職場のHさんとお二人分について、すでにJALと交渉中。JALからエール・フランスへ乗り換え可能かどうか問い合わせ中」とのこと。頼もしい。このような場合、今回の不祥事はJALの責任ではないため、JALの対応は至って呑気らしい。

結果、僕はエール・フランス便に席を確保、ただし、共同運航便ではないため、チケットは買い直し、つまりJALはキャンセルでbrand newのエール・フランス便を購入。格安チケットだったのに13万円ほど高くなる。会社の国際部からは旅行者担当者がOKを取る。僕の所属部署の事務担当者には僕から予算の確認をとる。携帯電話大活躍だ。そんなつもりはしていなかったのだが。

旅行社の担当者の指示に従って、チェックインカウンターに進む。チェックインしたその時には、旅行社からのコンピュータ入力が間に合っていなかった模様。必要な情報が数秒後に係員のコンピュータに届き、「あ、今届きました」ってなことで事なきを得て無事チェックイン。

同行の予定だったKさんは、担当した旅行社が至って冷淡で、JALへの相談は自分でしろと。JALカウンターは第1ターミナルだからひとり戻る。こんなことになるとは思わなかったから携帯電話を持ってきていないとのこと。連絡がとれなくなるので同行したいが僕は僕でエール・フランス便チェックイン待機中で身動きがとれなかった。しばらくして、公衆電話からKさんの声があり、「エール・フランス便はとれない模様。出張は断念。依頼元課長には連絡済み」と。

僕と同じ境遇に遭ったのが、先のHさんと別の部門のR部門長。R部門長はイギリス行きのため英国航空便を予約していたが、いい加減待たされた挙げ句欠航。同じ旅行社扱いで僕と同じエール・フランス便と相成った。

このエール・フランス便は、おそらくエアバス機で、本来はA滑走路から発つはずのところB滑走路を使うことになったのだろう。機体を軽くする必要があり、燃料は最小限、関西空港までの飛行分を搭

載。関空で満タンにする、そのためにパリ到着が 2 時間遅れるとのこと。問題ありません。

チェックインを済ませ、5 万円分をユーロに換金。今回は海外で使う携帯電話は借りない。どうせあんまり使わない。

セキュリティチェックゲートも入国審査もガラガラだ。ほとんどの便はキャンセルなのだから当たり前だ。それにしても、せっかくの旅行を予定していた多くの旅行者は気の毒だ。こういう場合、補償はどうなるのだろう。

免税店で、フランスのデルフィーヌとデニスへの土産に缶入りの日本茶を買う。1,300 円×2。R 部門長は折り紙セットを買っていた。

いつもの 11 番ゲート。僕のように席が決まっていなかった客はボーディングカウンターに呼ばれ、ここで初めて席が確定したボーディングパスを渡される。見ればビジネスクラスだ。エコノミークラスが満席だったんだろうなあ。文字通りどさくさに紛れてのアップグレードだ。後に R 部門長によれば、エール・フランス便の席を正規エコノミークラスで購入したから、優先的にアップグレードされたのではないかと。それなら H さんも同じはずだが、彼はエコノミーだった。

ともあれ、昨秋の出発 23 時間遅れ+ペンギン館宿泊に続くドタバタに対し、ビジネスクラスへのアップグレードならチャラにしよう。

機中。右隣はフランス人らしき男性。大学の先生か。左隣は日本人男性。機中では何も仕事はしないと決め、荷物は全部オーバーヘッドへ。食べて、映画を観て、寝る。映画は“Quantum of Solace” (『007 慰めの報酬』)。今の James Bond、ダニエル・クレイグはいつからか知らないがなかなかいい。“M”役のジュディ・デンチも健在。

19 時過ぎ、最初の予定より 4 時間遅れてくれなずむシャルル・ド・ゴール空港に到着。

ここからバタっちの名(迷)案内が始まる。

僕は今まで空港からホテルまではタクシーを使っていた。自腹を切っても、重い荷物を持ってその方が楽だからだ。タクシーが連れて行ってくれるから、最初の晩のホテルの正確な場所を頭に入れて来たことがない。今回もそうだった。おまけにバタっちという案内役つきだ。凱旋門近く、北の方向に歩いていった路地、くらいしか把握していなかった。まもなくこのいい加減さが彼と行動を共にする間中イライラの原因となる。彼は自分の部署の依頼で僕に出張してもらっているのだから、と思っているのだろうが、そもそも「案内好き」なのだろう。しかしそうなら添乗員のごとくあらかじめ知っておいて欲しい。

空港からはバスに乗るといふ。エール・フランスは市内何か所かヘリコプターバスを出している。僕と H さんと H さんと同じ会議に出るらしい日本人 3 人を、バタっちが「引率」する形になる。バスはこち

らの方向の 4 番乗り場です、とすたすた歩くものの、「4」番のドアは通り過ぎる。「あのお、過ぎましたよ。」少し戻り、辿り着いたのは降車専用バス停。いつものまにかすっきり暗くなっている。乗車用は建物の反対側だと係員らしい人に教えられる。待つこと久しいいい加減いらいらする。バスは市内まで片道 15 ユーロ、往復 24 ユーロ。帰りはバスなど使ってやるものかと思っていたので片道料金を払う。

バス停で待っている間に、

「すいませんが、すでに明日の資料は用意してくれたと思うのですが、発表用スライドに、もう 2 枚分ほど付け加えていただきたいのですが…。」

「…、今からですか。ではホテルで作業します。あとで原稿をいただけますか。」

パリ市内まで初めてのバス利用。空港内でもう 2、3 箇所停車して乗客を拾う。パリに向かう頃には満席だ。

ほんの 20 分ほどだろうか。エトワール、つまり凱旋門に到着。H さんと連れ合いもここで降りてタクシーに乗るといふ。バタっちと僕はホテルへ…。

ホテルの住所も位置もバタっち頼りだ。バスを降りて歩き始めた彼について行くと、道を渡ったところのカフェの前で立ち止まり、「地図を見ます」。日本でもらったパリ全図じゃわからないだろうなあ、と呆れながら、そして自分で確認しておくべきだったと思いながら、いらいら。たまたま通りかかった中年女性に「Best Western Hotel を知ってますか?」…知らないと思うよ。

それでもその彼女は彼女なりに眉間にしわを寄せて地図を眺め、頭を捻り、そして観念したように教えてくれた:「そこを曲がって 10m も行くとホテルがあるからそこで聞いてごらん。」

バタっちは、率先垂範、さっさとそのホテルに入っていく、われわれのホテルの場所を聞きだしてくれた。今いる大通りが凱旋門から真北に延びる Avenue Mac Mahon (マクマホン大通り)。ここから斜め右に入る路地の Rue de Montenote (モンノット筋) 沿い。あつた、あつた、Best Western Empire Elysées (バストウエスタン・エンパイア・エリゼ)。ホテルの住所は 3 Rue de Montenote。後で PC で検索してわかったのだが、パリに Best Western ホテルは 50 軒以上あり、上のホテルのすぐ近くにさえ 2 軒ある。Best Western Elysées Paris と Best Western Star Champs Elysées。

大通りはともかく路地はやはり石畳。スーツケースのキャリアーはうるさい。9 時半頃、ようやくチェックイン。空港に着陸してから 2 時間半。疲れた。

僕はこのホテルに 4 泊。バタっちは 1 泊だから明朝にはもうチェックアウトだ。慌ただしい。チェックイン後そそくさと部屋に上がる気でいたら、バタっち、ホテルマンに「近くにコンビニはない?」「～はない?」…。あとで聞きゃいいじゃないか…。

このホテルはバタっちが日本にいるとき予約し

てくれたもの。その予約でもいらいら。どのホテルがいいか、このホテルを予約していいか、値段はこうだと言っているがいいか、自分がカードで3人分を支払い事後に現金で二人から返金してもらう方法でいいか等々、いちいちわれわれ二人に電子メールで確認をとるのだが、その返事を待っているうちに半日、1日と経過していく。たぶんこの間に料金は間違いなく上昇したね。

どうも、僕ら自身にホテル予約などをさせると、僕らが便宜供与をさせたことになることを気にしているのではないかと、別の声。ただでさえ、出張依頼をもらったのが会議前4週間を切った2月末、焦っているところ、ますます焦りが高じた。

さて、ホテル。僕の部屋は2F、つまり日本で言う3F。パリのホテルにありがちなのだが、旅行かばんを持って乗り込むにはエレベーターはやたら狭い。階段を上がる。部屋は結構広い。気に入った。ベッドがふたつに、予備のベッド代わりになるソファベッドがひとつ。バスルームは広い。

荷物を広げているところへバタっちがUSBを持って来る。PCをONにし、早速スライドを手直し。追加する情報をスライドの形で持ってきてくれたのかと思ったら、テキストだった。スライド1枚を追加することになった。たった1枚だが結構時間がかかる。附録的な情報なら追加するだけだが、本文を加筆するとなると全体の流れも考えなくてはいけない。で、メールチェックを含め、結局就寝は3時。

Kさんからメールが入っていた。成田で出張断念の電話を受けたが、その後も実は午後4時頃までキャンセル待ちをしていたらしい。それでも席を取れず、万策尽きたと。

長い1日が終わった。ともかくパリ到着。

### 3月24日(火)曇り

5時半起床。2時間しか寝ていないが緊張と時差ぼけで眠いとは感じない。窓を開けると寒い。出掛けるにはコートが要。バスタブに湯を張り入浴。ゆっくりしていたら、気がつけば朝食開始の7時を過ぎていく。

朝食は0階(ground floor)にあり、国際ホテルらしく、ハム、チーズ、シリアル、ヨーグルト、プリザーブドなどそれぞれ数種。それにスクランブルド・エッグ、ベーコン。自分でゆで卵も出来るようになっている。もちろんパンもあるが、伝統的なフランスパン+クロワッサン+カフェオーレという朝食ではない。コーヒー類は機械でがっかり。コーヒーポットとミルクポットを持った給仕さんが大きなカップに注いでくれるなんてことは望むべくもない。先にバタっちが食べていた。

8時にロビーで待ち合わせと前夜に約束していたので、10分ほど前から待っていた。8時を少し過ぎて彼が降りてきた。チェックアウト。すぐ出掛けると思いきや、今度は「近くにワインセラーはない

か」「##はないか」と聞いている。仕事が終わったら戻ってきて買い物でもするつもりなのだろう。彼が8時出発だということから待っていたのに、ああ朝からイラっとする。

戻ってくるならスーツケースをホテルに預ければいいのだが、持って行きたいらしい。ガラガラガラ...

そして大通りまで出たところで、「え〜と、メトロはどこでしたっけ？」さすがに、メトロの入口くらいは、私、タベホテルへ向かう途中にチラと見て確認しておきました。凱旋門の廻りにはいくつか入口があります。ここはメトロ6号線です。

凱旋門はArc de triompheだが、この辺りをEtoile(エトワール)というのはなぜ?<sup>1</sup>

エトワールから今日の仕事場となる会議場所までどうやっていくのかは、全く彼任せ。僕は何年か前に一度、当時赴任していたY君(今は日本に帰っている)を訪ねて行ったことがあるが、このときは市の南の方からタクシーで行った。パリ市内からメトロで行くのは初めてだ。だから全くの不案内。それでも一人で行くなら事前に綿密に行程をチェックしておくのだが、お任せ気分は確なことはない。

バタっちによればメトロ6号線にここシャルル・ド・ゴール・エトワール駅から乗り、3つ目の駅Trocadéro(トロカデロ<sup>2</sup>)で9号線に乗り換える。10枚組の切符(カルネ)を買い、久しぶりのパリメトロに乗り込む。

トロカデロで降りた方がいいが、プラットフォームを探してみても9号線への乗り換え通路が見つからない。「ここに入口があったはず」というところに「閉鎖」の張り紙。仕方がないので一旦地表に出ることにし、切符売り場の人に事情を話すと、メトロ9号線のトロカデロ駅は完全に封鎖されている、隣の駅まで約5分歩けと。

地表に出て、さあどちらの方向か。こういうのを準備がいいというのか悪いというのか、おそらく悪いのだが、彼はトロカデロ宮殿の前でスーツケースを開け、徐に地図を取り出す。地図と風景を交互に見てキョロキョロしている様子を見て、道行く人に

<sup>1</sup> 凱旋門を中心に、シャンゼリゼ通りを始め12本の通りが放射状に延びており、その形が地図上で「星=étoile」のように見えるので、この広場は「星の広場(エトワール広場) la place de l'Etoile」と呼ばれていた。そのため、「エトワール広場の凱旋門」の意味の「Arc de triomphe de l'Etoile」との正式名称がある。ただし、現在この広場は「シャルル・ド・ゴール広場 la place de Charles de Gaulle」と名称が変更になっている(Wikipedia)。

<sup>2</sup> トロカデロ宮殿は昔。今はシャイヨ宮 Palais de Chaillotという。フランス・パリ16区にある宮殿。セヌ川対岸エッフェル塔に対峙する。1937年のパリ万国博覧会にあわせ、旧トロカデロ宮が取り壊され、新宮殿である現在のシャイヨ宮が建てられた。有名な世界人権宣言は1948年にここでの国連総会が採択した。現在トロカデロは海軍や民族学の資料を展示(Wikipediaなど)。

聞いた方が早いと思い、通勤途中らしき紳士に声を掛ける。「トロカデロの駅が閉鎖されている。メトロ9番線に乗るには次の駅まで歩くように言われた。どの道を行けばいいの？」

どこへ行くのかと聞かれる。当たり前だが、「次の駅」は両隣ふたつある。そこでバタっちは、懸命に「Porte de St-Cloud、Porte de St-Cloud」とフランス語で答えるのだが通じない。フランス語は難しい。何度も言い返す。それでも通じない。

無理ですよ。市内に向かうか郊外に向かうか、とか東向きか西向きか、のように答えればそれで済むこと。「西」と答えると紳士は「あそこに見える通りを行けばいい」と指さしてくれた。

しかし、彼が指さした道をわれわれが1本間違えたところから、情けない笑い話が始まる。トロカデロ宮殿の前からは7本の道路が放射している。一筋間違えた。Avenue Georges Mandel (ジョルジュ・マンデル大通り)を行けば隣の駅 Rue de la Pompe (ポンプ通り駅)に到着できたものを、Avenue Paul Doumer (ポール・ドゥメル通り)を歩いてしまった。彼が手にしている地図と標識の道路名を確認すればよかったのだが、正しい道かどうか疑い始めた頃には随分歩いた後だった。途中でおじさんに道を尋ねて「メトロの駅ならすぐそこだよ。駅名は知らないけれど。」と言われたときには、トロカデロ駅から2つ目に当たる La Muette (ラ・ムエッタ) 駅だった。

トロカデロ駅から西進した地下鉄9号線は、次の駅である Rue de la Pompe (ポンプ通り)で垂直に曲がって南下する。その次の駅がラ・ムエッタ駅。トロカデロ駅から、三角形の最も長い辺を歩いたことになる。

ポール・ドゥメル通りを行く途中、Rue Nicolo (ニコロ通り)と交差した。懐かしい。以前よくこの通りのニコロホテルに泊まった。

明日以降の3日間の会議は国際機関本部で行われるが、本部はこの駅から近い。歩いていける。しかし、今日の会議は支部所の建物である。最寄のメトロ駅が、上に書いた Porte de St-Cloud 駅。ラ・ムエッタ駅からメトロに乗り、6駅目が Porte de St-Cloud。「聖クロード入口」？

会議開始は9時。ホテルを出たのが8時過ぎ。余裕をもって出発したはずが、このままでは遅刻しそう。Porte de St-Cloud 駅を降りてもうすぐかと思ったら、ここからバスに乗るといふ。まだかよ、って気分。僕は初めてだから彼に従うしかないのだ。289番バスはすぐに来たからよかったものの。5つ目か6つ目のバス停で降りる。ちなみにメトロの切符がバスでも通用するので便利。同じ場所に向かうと思われる乗客二人。英語で会話しているのでわかる。

バスを降りてそこは Le Seine St-Germain (ル・セーヌ・サンジェルマン) という、セーヌ川の中州である。西南に向かうセーヌ川が急角度で北へと向きを変えるところ。パリ市内地図の左下端で、地図によ

っては載っていないかも。Porte de St-Cloud の対岸が Issy les Moulineaux 地区で、イシ・ル・ムリネと読む。

今回の出張では、仕事のための行動範囲はセーヌ川とブローニュの森の間ということになる。

会議室到着は会議開始のちょうど9時頃。比較的なごやかな集まりだからよかったものの、「それでは定刻になりましたので」で始まる日本の会議なら遅刻だ。まあ、間に合ったと言えば間に合ったが、バタっちはここまで計算していたのだろうか。

昼食は、こちらに駐在している日本人部長とバタっちと3人で近くのイタリア料理店へ。周囲にはあまり店はない。ここの職場に勤めているような比較的財布に余裕のある人はよく来るんじゃないかな」と部長が言う店。ラザニア。旨かった。それほど量は多くなく助かる。

6時頃一日の仕事を終える。前日から来ているという同じ会社の別部門のUさんと建物を出る。ここでバタっちとはお別れ。Uさんはもうかれこれ20年くらいこの国際機関と付き合っているらしい。この辺りの地理にも詳しい。帰りはバスに乗らずメトロの駅まで歩く。オフィス街から街中に入っていく感じ。朝降りたメトロの駅 (Porte de St-Cloud) より一つ先 (南) の Marcel Sembat (マルセル・センバ) から乗る。

彼は機関の本部に近い、つまり上のラ・ムエッタ駅に近い、Passy (パシー) 地区に宿をとっている。今夜はそこへM理事とI部門長とイギリスから回ってくるR部門長と合流することになっている。晩ご飯を一緒にどうかと誘われたが、今夜はデルフィーヌから連絡があるやも知れないのでホテルへ戻ることにした。

デルフィーヌとは夕食を一緒にしようとして出国前から約束していた。が、少なくとも今朝3時まではメールの連絡はなかった。

そうそう僕が普段国内で使っている Docomo の携帯電話は、日本国内に居て国際電話は可能だが国外では発信できない。発信したメールは1日くらい遅れて日本に到着する。

というわけで、パリ到着以来デルフィーヌへの連絡手段は電子メールしかないのだ。そう思って仕事場にパソコンを持ち込んだのだが、情けないことにバッテリー切れで使えなかった。

トロカデロのメトロ駅が封鎖されていると伝えらると、Uさんがさすがに詳しい。メトロ9号線でトロカデロを過ぎて Franklin Roosevelt (フランクリン・ルーズベルト) 駅で1号線の西向きに乗り換えれば George V (ジョルジョ・サンク) 駅を過ぎ、その次がエトワールである。

乗り換えのためフランクリン・ルーズベルト駅構内通路を歩いていたら、後ろから声を掛けられた。別れたはずのバタっちがそこにいた。考えることは同じで、この駅で1号線に乗り換える。エトワールで降りて地表に出たところで今度こそお別れだ。僕

はホテルに向かう。彼は買い物でもしてバスで空港に向かう。彼は4月からは別の部署に異動するので、日本でも会うことはないだろう。今回の出張は彼にとっての卒業旅行だった。

ホテルに戻って電子メールをチェック。デルフィーンからメールが入っていた。8時にホテルに迎えに来る。パリの楽しい場所やおいしいレストランを求めてあらゆるところを走り回っている彼女も、この辺りは「not my place」だと言う。

「凱旋門の辺りで選ぶなら」と、「le Bistro Marbeuf」というステーキの店へ。「マルブフ通りのビストロ」ってな感じか：21 rue Marbeuf 75008 Paris, <http://www.gnavi.co.jp/world/europe/paris/w335030/>。

路上に僅か1台分のスペースを見つけ縦列駐車するのに天才的な彼女も、今夜はスペースを見つけられず地下の駐車場へ。この店のステーキは“Aubrac”（オーブラック）という牛肉の産地で有名なところの肉らしい。Aligot（アリゴ）がウリとしてメニューにあったので仏南部だろう。Aligotは去年フランスへ行ったときに食べた。チーズ+ジャガイモのピューレ+牛乳+バター+ニンニクを加えて練り、糸を引くような状態に仕上げ、大きなソーセージを付け合せた名物料理。旨いが重い。あの時は夜10時頃にレストランに到着してそれから食べた。カロリーたっぷり。

今回のle Bistro Marbeufへは車で連れて行ってもらったため正確な場所がわからないが、凱旋門を背に東を見て、シャンゼリゼ通りから右手の街区に入ったあたり。高級店街の中にある。

店はカジュアルで値段は手頃。ふたりでスープ1、メインディッシュ（ステーキ）2、デザート1、ビール2、ワイン1本で103ユーロ。彼女のおごり。あやうくタルタルステーキを注文しそうになった。

明後日26日に、彼女の部屋の大学院生の南部への引っ越し祝いとかで集まりがあるらしい。そこへ合流しないかと誘われる。せっかくだから行ってみよう。

### 3月25日（水）曇り

5時起床。恒例のメールチェック。風呂。4泊だとスーツケースを殆ど空に出来るくらい部屋の中に荷物をおいておける。それで結構落ち着く。

7時過ぎ朝食。8時前にはホテルを出る。

さて、昨日さんざん失敗したお陰で、仕事場までの地理が感覚的に分かってきた。昨日と違って、今日の会議場所はラ・ムエッタ駅の近く。パリ市の端までメトロで行くのではない。歩くことにした。

まずホテルから凱旋門へ出る。メトロ9号線を進るとすると、Avenue Kléber（クレバー大通り）を南下。大きな通りだが賑やかではない。オフィス街でもなく商店街でもなく。朝のラッシュアワーなのに人通りは少ない。さびれつつある印象。今にも降りそうな重たい曇り空がそう思わせるのかも。

トロカデロ宮殿へ。ここから昨日と同じくポール・ドゥメル通りをラ・ムエッタ駅へ向かう。今日はメトロには乗らない。この駅のある賑やかな一角から住宅街に入ってクネクネと歩くと目指す国際機関本部がある。ここまで小一時間。寒いからコートを着ざるを得なかったが、小一時間歩くと汗びっしょりだ。立ち止まると眼鏡が曇るくらい。

この辺りは本当に高級住宅街だ。「パリ16区」と言えば、言わずと知れたパリ市内の高級住宅街。ちょっと前までは日本人駐在者は皆この辺に住んでいたとか。アパートが多いが、見るからに高級そうだ。

仕事場である本部の建物は最近改装されたばかりで真新しい。年度末の今の時期いろいろな分野で会議が開かれ、入り口のセキュリティは混み合う。日本人も多々見かける。会議室はCC12。大きな会議場だ。今日からここで3日間会議に出席する。日本からの出席者は合計7名。当社理事と並んでメインテーブルに座らされる。

議長はMarie-Claude Dupuis（マリークロード・デュブイ）とい女性。42,3歳らしい。国会議員の会長と並んでフランスの会社の会長のひとり。理系のエリート大学院大学エコール・ド・ポリテクニク出身の鉱山技師で、官僚から抜擢されたらしい。外国人によくあるが実に気さくだ。が、すさまじく頭はいいのだろう。その彼女ら、常連の仲間からわが理事は「ミッシー」と呼ばれている、ということに会議中に気付いた。

昼食は建物内の売店のようなところで、カフェとチョコレートマフィン1個で済ませた。食堂は、メニューを見て重そうだと思ってやめた。

夕食はUさん、I部門長、R部門長に合流させてもらう。彼等と理事はPassy地区の同じホテルに投宿している。会議場から歩いてホテルへ向かう。Rue de Passy（パッシー通り）を東に向かうことになる。

Passy地区は、以前僕がよく利用していたホテルがあるところで、町を歩いていてなつかしく思い出した。歩き回ったなあ。今は日本にいるSさんが昔パリに居た頃、Nicolo（ニコロ）通りのニコロホテルを紹介してもらって何度か利用した。今回は満室でとれなかった。

Uさん達のホテルはパッシー通りに面した小さな文房具屋の脇に入っていったところにある。Uさんの部屋にかばんを置かせてもらって、4人で出掛ける。韓国料理店だという。

ホテルを出てパッシー通りをさらに東に向かう。途中のニコロ通りを左折すればすぐニコロホテルだ。

少し下り始めたところに小さなPlace de Costa Rica（コスタリカ広場）なる七差路があり、その近くの店が目指す韓国料理店。ここには昔2,3度来たことがある。韓国料理と言えばせっかくだからと焼肉定食のようなものと冷麺を食す。最初にキムチ各種（6種類くらいか）の小鉢が並べられるのが嬉しい。最後の冷麺はとても辛かった。それまでで満腹だっ

たのと辛いのでフィニッシュできず。

ホテルまで戻ってかばんを受け取り、そこから僕は自分のホテルに向かうわけだが、ここからラ・ムエッタ駅に向い、9 番線ラ・ムエッタ駅→フランクリン・ルーズベルト駅/1 号線に乗り換え→エトワール駅というルートをとるよりは、今来た道を引き返し、そのまま東へ降りていけば、トロカデロの正面、セーヌ川沿いに出るのだから、ここでメトロ 6 号線に乗ればいいのではないか。

パッシー通りをもう一度東に向かう。コスタリカ広場を抜け、韓国料理屋を左手に見て歩くのだが、ここからトロカデロまでは暗い。やや気味が悪い道ではある。

トロカデロ宮殿には人が大勢集まっていた。何かのイベントの後らしかった。ふと見ると、宮殿正面に見えるエッフェル塔全体に灯りがともっていた、というか光を放っていた。

そのあたりを歩いていた人にメトロの駅の場所を聞く。宮殿の反対側だという。宮殿内を抜けることは出来ないから宮殿をグルリと迂回し、さらに道行く人に聞いて駅にたどり着いた。結局結構歩いたことになる。次に歩くときは最初からトロカデロの裏側（セーヌ河と反対側）へ行こう。22 時頃無事ホテルに帰着。

### 3 月 26 日 (木) 曇り

今日も 8 時前にホテルを出発。今日は昨日と違って、凱旋門から Avenue Victor Hugo (ビクトル・ユゴー大通り) を行く。そうです、『レ・ミゼラブル』を書いた大作家です。ビクトル・ユゴー広場を過ぎ、もう少し行くと、小さいけれど賑やかな六差路にぶつかる。先にメトロの駅で出てきた Rue de la Pompe (ポンプ通り) へ左折。ジョルジュ・マンデル大通りを通り抜け、パッシー通りへぶつかれば、そこから右折して目的地へクネクネ道に行く。

ポンプ通りは狭いが、小さな店が軒を連ねる面白そうな街路だ。時間があればキョロキョロしながら歩いてみたいところ。小学校の通学時間と重なり、子どもたちと子ども達を連れてきた親とで歩道はごった返していた。

今朝もメールチェックをしたが、するんじゃなかった。先に帰国したバタっちからメールが来ていて、「3/24 の会議の議事メモを書いて送れ」と。自分も出席していたではないか。きっと自分の外国出張報告書の材料にするのだろう。

会議中内職し、A4 版 1 枚分を仕上げて送った。別に彼の上司からも 3 月末日までにメモを送れと言われており、バタっちへのメールには「上司の方からも依頼がありますので、添付にてお送りしたメモにあなたの方で補足頂き、上司の方にお渡し願います。」と書いて、上司にも cc.しておいた。帰国まで

にバタっちからの反応はなし。<sup>3</sup>

今日のお昼ご飯は建物内の食堂で食べた。メインは 4 種類ある。魚を選んだ。ごった返す。10 ユーロ程度にしてはそこそこおいしいが、いかんせんごった返す雰囲気では落ち着かない。

さて、夕食はまたデルフィーヌと。例の、大学院生送別会のような集まり。7 時頃から彼女の住む町 Châtillon (シャティオン) のレストランで、とのこと。こちらの仕事は 18 時頃終わるが、ラッシュアワーに車で迎えに行っても間に合わない、については、メトロの駅、Châtillon-Montrouge (シャティオン-モンルーージュ) まで来てそれから##番のバスに乗れ、バスが不安なら駅まで車で迎えに行く、とのこと。無論迎えを頼む。

さて、シャティオン-モンルーージュ駅。メトロ路線図で見ればパリ市を南北に走るメトロ 13 号線の南側終点の駅だ。その 3 つ手前の Porte de Vanves という駅を最後にパリ市を出、隣町であるシャティオン市となる。

以前毎年のようにパリに来ていた頃は、(出張中の行動も比較的 자유が効き) 片っ端からメトロに乗っていたが、さすがにこんなところまで乗ったことはない。職場からどれだけ時間がかかるのか見当もつかない。早く着きすぎてもいいから、一旦ホテルに戻ることはせず、直接向かうことにした。

いくつか行き方はあるようだが、メトロ 9 号線でフランクリン・ルーズベルト駅、1 号線に乗り換えて隣の Champs-Élysées Clémenceau (シャンゼリゼ・クレマンソー) へ、そこで 13 号線に乗り換えて南へ向かう。途中で Varenne (バレンヌ) という駅があるが、世界史で習ったバレンヌ事件の Varenne とは関係ないようだ<sup>4</sup>。

いつの間にかメトロは地下鉄ではなく地上を走っていて、18 時半頃終着シャティオン-モンルーージュに到着。パリのベッドタウンなのか大勢が降り、バスがひっきりなしに出て行く。さらに郊外へ向かうのだろう。それにしても寒い&手持ち無沙汰だ。売店でチョコレートバーを買い、かじる。

駅を出たところの階段の下で待つように言われたので、つくねんと待つ。辺りはとっくに暗い。ふと見ると、道路の反対側、ガード下横でデルフィーヌが手を振っていた。

車に乗り、着いたところは BARBEZINGUE (14 Boulevard de la Liberté 92130 Châtillon) という、カジュアルで、クラシックなフランス料理店といった雰囲気

<sup>3</sup> 帰国後に上司の方にこの話をしたところ、彼からメモは転送されず、要求したら、挙げ句の果てに「異動のために間に合いません」と言い残して去ったとか。最後の最後まで仕事をしない奴だった。

<sup>4</sup> 1791 年 6 月 20 日、革命の先行きを案じたルイ 16 世と王妃マリー・アントワネットが、マリー・アントワネットの愛人の手助けで実家であるオーストリアへ逃亡を図った事件。バレーテ失敗した。



の店。デルフィーヌの天才的縦列駐車術発揮。

集まったのは総勢 10 人。僕は飛び入りだが、特段の特別扱いもなければ無視されることもない。デルフィーヌの計らいだろう。有り難い。もちろん、フランス人はフランス人通しですぐにフランス語で話し始めるが、これは了解。日本人もすぐに日本人同士で日本語で話す。

料理は、いわゆる大皿料理で、注文していないのに最初から決められている。プラス、好みがあれば注文。何を食べたか・・・んんん、忘れた。覚えているのは、大皿では、コーンビーフ（だったと思う）、ブロッコリサラダ、そのほか 2, 3。白ワイン、牛のほほ肉スープ、デザート（アイスクリーム）、それにエスプレッソ。

11 時頃解散。そうそうレストランへ入る前に、たまたま車を停めた前のスーパーマーケットで、デルフィーヌは日本へのみやげを買ってくれた。BASSIN DE VICHY と書かれた白くて甘いメンソールの味のするキャンディみたいな袋菓子とハーブ。

彼女は、我が家がタフナートとかハーブを使うと言ったものだからしょっちゅう買ってくれたりみやげに持って来てくれたりするのだが、日本では使うといってもささやかなものだ。人に分けても限りがあるし、もらった人も使い方に困るだろうから多くを分けられない。随分前に買ったトマトのオリーブオイル漬けやドライトマトは未だに使いきれずにある。それにハーブは最近日本でも売っている。タフナートもそのうち普及するだろう。今度会ったときは「もう十分」と伝えよう。

彼女の言っていたとおりに、この時間のパリ市内は実に快適にドライブが出来る。パリの南端からエトワールまでわずか 20 分足らずだった。行きのメトロに要した時間といい、車でホテルまで要した時間といい、要するにパリは巨大な都市ではないし、交通至便ということです。

### 3月27日（金）曇り

いよいよパリ最終日だ。チェックアウト。1泊 90 ユーロ、朝食が 13 ユーロだった。スーツケースは午後まで預かってもらう。

今日も昨日と同じくビクトル・ユゴー通りに行く。今日はポンプ通りを少し過ぎ、Rue de Longchamp（ロンシャン通り）まで歩を進めたが、結局ポンプ通りまで戻ってきた。

最終日の今日は会議は午前中で終る。

おとといの夜と同じメンバー、つまり U さん、I 部門長、R 部門長と連れ立って出る。これまで毎朝毎夕通った住宅街の中の道ではなく、公園の中を抜けた。ラ・ムエッタ駅近辺の商店街を抜け（そういえば YAMAZAKI のパンの店があった）、彼等のホテルへ。荷物を置かせてもらって、今日は、昨夜彼等が行ったというピザ屋へ行く。ずっと昔入ったことのあるカフェの並び。Annonciation 通りだ：LA MATTA、

23, rue de l'Annonciation 75106 Paris。ピザもパスタもうまかった。パリではスパゲティを食べるな、というのが鉄則であるが、さすがにイタリア人の店は信用できる。

野郎 4 人でスター・バックスコーヒーなどを飲み、歓談後分かれる。彼ら 3 人はもう 1 泊。僕は夕方 18 時発のエール・フランス機に乗る。金曜日の午後は空港までの道がやたら混むから、できるだけ早くパリ市内を出た方がいいとのアドバイスに従い、ホテルへ。

今日もメトロのトロカデロ駅へ向かったが、一昨日夜の反省を生かし、今日は宮殿のセヌ川とは反対側へ向かって、フランクリン通りを歩く。ホテル着が午後 2 時頃か。チェックアウトは朝出掛ける前に済ませ、預けておいた荷物を引き取る。

ここまで歩いてきて大汗だ。今日は暑い。かばんは PC と紙でパンパンなのだ。ホテルのロビーでスーツケースを広げ、余分な荷物は放り込む。

いざ、帰路へ。気が変わって、バスで空港に向かうことにする。時間に余裕もあることだし。

ターミナル 2F へ到着し、チェックイン。絵葉書を 10 枚と仕事場用土産チョコレートを買う。ゲートへ進んでからは、買って失敗した炭酸入りオレンジジュース 1 本きり。これで成田で換金した 5 万円はほぼ使い切り。

帰りはさすがにビジネスクラスへのアップグレードはなかった。ドサクサはなかったのだ。行きと帰りとどちらかビジネスを選べといわれれば帰りですね。疲れ方が違う。まあ、通路側だったし、内側に座っていた人たちも 1 回きり動かなかったので面倒ではなかった。

映画は Angelina Jolie の“Changeling”。changeling とは「すり替えられた子、取替えっ子」という意味だと初めて知った。実話らしい。むごい話だ。警察権力もむごい。今一番セクシーな女優といわれる彼女は一流の女優でもある。

### 3月28日（土）東京曇り

ほぼ予定通り 14 時前に成田に着陸。14:25 発のローズライナーにギリギリで乗る。乗ってまもなく携帯電話はバッテリー切れ。バスの乗車前に充電している時間はなかったのだ。水戸駅南口に到着し、タクシーで自宅へ。